・湯の沢のお松と菅生田のお玉……湯ノ沢は昔、本村の管轄であった。湯ノ沢の松は国道筋、バイパスの左手、もとの湯ノ沢分校の前にあった。樹齢三〇〇年の傘松である。昔この松が一時、葉が枯れ落ちたため村の衆は、なぜだろうと話あったところへ、上方から「湯ノ沢村、お松」宛に手紙が届いたので村の衆は、湯ノ沢で伊勢参りに行った人はいないし誰だろうと話合っていたら俄に、今まで枯れかかっていた松の葉が段々と青くなり、もと通りのみどりの松にかえったので、この松は上方参りに行ったのだといい伝えられ現在にいたっている。

一方、それと時を同じくして隣の集落、田子内字菅生田には「お玉」宛に、上方から礼状が届いた。菅生田村衆も一同に会し、誰であろうと話題になった。やがて国道筋の佐々木伊三郎屋敷内の畑の隅に大きい丸い石が現われたのでこの石は、どこからどうして現われたのであろうかと不思議に思っておったところ、隣の湯ノ沢の「お松」の話を聞いたので「菅生田のお玉の上方参りの石であった」といい伝えに残っている。そこで当時の伊三郎翁は大豪力で現在の場所に投げたといわれており、いまもそのままところにあるという。